

選定が難航
部は「昨今
ええ（工事
門戸をより
と狙いを説
工事監理業
きとなる
等業務委
に第三者監
見直し内容
5月に開い
管課長会議
引き改定を
の改定作
き6月に改
る。

近未来コンクリート研
究会（十河茂幸代表、写
真）による第8回総会が
4日、広島市中区で開か
れ、会場参加とWEB参
加合わせて約40人が出



近未来コンクリート研究会 「S協議会」は「E協議会」へ 第8回総会で活動報告

席。各議案を滞りなく承
認したほか、同会を構成
する「コンクリートの施
工改善技術研究（CII）
協議会」「RC構造物の延
命化技術研究（M）協議
会」「脱炭素コンクリート
技術研究（S）協議会」
の3協議会について、今

後も継続して協議を行う
ことを申し合わせた。
分業化した業種間の連
携強化によって、コンク
リートの全体最適をめざ
す同会は、昨年度も3つ
の協議会で各3回の会合
を開催し、より議論を深
めた。



各協議会の事業報告の
うち、広島工業大学の竹
田宣典教授を中心とした
「CII協議会」では昨年
度、後添加型流動化剤増
粘タイプによる施工性改
善実験の結果を共有した
ほか、沈下び割れ対策、
残コン・戻りコンに関す
るディスプレイを展開

する情報収集などを踏ま
え、今後は脱炭素コンク
リート技術を包含した環
境負荷低減技術について
の議論に移行するとし、
「環境負荷低減技術（E）
協議会（仮称）」として活
動する方針を示した。

このほか、終了後には大
林組技術本部の石関嘉一
氏が「建設用3Dプリン
タの現状と未来」と題し
て特別講演を披露。海外
の大型構造物の事例や同
社による実証棟の建設な
どを紹介し、建設業でも
様々な場面で実用化が始
まり、さらに適用範囲拡
大が見込まれる3Dプリ
ンタの可能性を説いた。

「M協議会」では、過年度
まで実施していた小規模
橋梁点検要領の活用に関
する活動に区切りをつ
け、塩害環境下の品質評
価に関する基礎的研究、
建設用3Dプリンタな
ど、協議会メンバーを講
師とする情報共有に注力
した。今後は「予防保全
「補修」をキーワードに補

修技術に関する情報を幅
広く調査し、現場見学な
ども取り組む。
また、広島工業大学の
坂本英輔教授らによる
「S協議会」では、これま
で行ってきた脱炭素社会
のあるべき姿についての
議論、脱炭素技術に関す
る情報収集などを踏ま
え、今後は脱炭素コンク
リート技術を包含した環
境負荷低減技術について
の議論に移行するとし、
「環境負荷低減技術（E）
協議会（仮称）」として活
動する方針を示した。

請施工実績を有すること
など

弁φ400・1基、φ3
00・3基、φ200・

管布設工一式

工期＝27年3月31日

を実施し引き渡した実績
（E工程へ一筆地調査）及

「宇部市地籍調査事業
（測量及び一筆地調査）」

